

コミュニティ活動研究所に長期的な基礎研究プロジェクトを設ける提案

「コミュニティ活動研究」が一学問領域として十分に認知されているとはいいがたい現状において、その研究の対象・目的・方法論などを基礎から作り上げ、認知度を上げることはコミュニティ人間科学部の使命の一つと言えるだろう。そのような研究領域の立ち上げが、個人の研究を踏まえた共同研究の形をとるのは、ごく自然なことである。また、そうした基礎研究が長期的な継続性を要することもまた、必然的といえる。そのような認識から、コミュニティ活動研究所において、「コミュニティ活動研究」の学術的基盤形成を目的とする長期的な基礎研究プロジェクトを設けたい。

具体的には、教育学及び社会学を専門とするメンバーを中心としつつ、その時々々の短期的な研究課題に沿って構成員を緩やかに入れ替えながら、コミュニティとは何か、それにはどんな特性があるか、これまでの様々な学術研究の歴史の中に「コミュニティ活動研究」はどのように位置づけられるか、「コミュニティ活動研究」はどのように社会に貢献しうるのか、等々の問いに答えを打ち出していくことをプロジェクトの目標とする。このような地道な基礎固めによって、「コミュニティ活動研究」の基盤が徐々に形成されていくものと期待できる。

コミュニティ人間科学部構成員の研究領域の多様性に鑑みると、「コミュニティ活動研究」は多様な周辺領域を巻き込む形で、遠心的にその研究領域を広げていく可能性をはらんでいる。ただし、そのような遠心的研究活動の前提となるのが、コミュニティ活動の本質を探究する基礎的かつ求心的な研究である。そしてコミュニティ活動研究所が組織的にそのような研究活動を支援することが、少なくとも今後10年程度は必要であろう。

このような基礎研究を固めた成果として、たとえば『コミュニティ活動研究概論』のような学術書を刊行することができれば、当学部の学術的な位置づけを広く学界に打ち出すことも可能となるだろう。また、それと並行して、学生向けの入門書も編纂することができれば、当学部入学者たちの学知の基礎となるのみならず、一般向けに当学部の研究活動の意義を訴え、かつより実りある地域活動の実現に資することとなるだろう。

なお、研究所報にこれまで2回掲載された、学部学生対象「コミュニティ人間科学部学生の地域体験と知識に関するアンケート」についても、この基礎研究プロジェクトの活動の一環として位置づけ、継続的に実施することを、あわせて提案したい。

2022年 3月
コミュニティ活動研究所運営委員会